



第 85 号  
年 1 回発行  
木曾広域連合  
養護老人ホーム  
木曾寮  
TEL 0264-52-2054  
FAX 0264-52-2934  
Eメール kisoryou@kisoji.com

援施設上松荘・児童養護施設ねざめ学園などを設置・運営する社会福祉法人です。

障がい者と高齢

令和四年から木曾寮所長をさせていただいております。楯憲吾です。

木曾寮の新施設が完成しました。新しい木曾寮は、五十五名の入居と三名のショート利用が可能な、木曾郡内唯一の養護老人ホームとなります。

全室個室、空調完備で、利用者の皆様に負担の少ない快適な暮らしを提供すると共に、緊急設備と避難室を二階に配置し、災害時に介護が必要な方でも施設内で無理なく避難ができる垂直避難体制、木質チップボイラー・太陽光発電の導入による環境負荷の軽減、調理員の人手不足を解消するニュークックチル方式の導入など、高齢者福祉施設が抱える課題の解消を目指した施設となっております。

三月中には利用者の皆さんが現施設から移転し、新施設での生活が始まります。四月からは、木曾広域連合の直接運営から木曾社会福祉事業協会の指定管理運営に運営体制もかわり地域共生社会を目指します。

木曾社会福祉事業協会は、障がい者支

者という二つの福祉施設運営を通じて木曾における共生社会実現の役割を担っていただけるものと期待しております。

人口減少と高齢化が進む木曾地域においては、生活の安心と安全が最も重要となってきました。そのためには、我々全員が協力して地域を守っていくことが必要です。新木曾寮も、その一翼として、住民の皆様にご活用いただける施設として運用してまいります。

皆様には、養護老人ホーム木曾寮に、これまで同様のご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。



ささゆり

老人ホーム木曾寮の歩み

昭和二十七年七月

生活保護法による「上松町立駒ヶ根養老院」として、定員四十名で開設

昭和三十八年四月

現在の場所に新築移転。(定員五十名)

昭和四十八年～五十九年

夫婦棟増設。(定員八十名)  
管理棟を改築

昭和六十年

管理棟及び居室を改築。(定員七十六名、ショートステイ二名)

平成三年四月

特別養護老人ホームを併設の為、組合名称を「木曾老人施設組合」に改称

平成四年四月

小規模特別養護老人ホーム  
木曾寮を併設

平成十一年四月

設置・経営主体を「木曾広域連合」に改称

平成十八年五月

居宅介護支援事業所及び訪問介護事業所開設

平成二十二年十月

特別養護法人ホームを廃止。養護さつき棟に変換

一期一会

支援係 中村 美和



昨年の四月より支援員として働かせていただいております中村美和と申します。

一昨年八月にご縁があり東京から引越してまいりました。東京でも特養や小規模多機能で働いており、こちらに来てからは上松荘で半年間お世話になりました。まだまだ未熟ではありますが、一日一日を大切に一生懸命頑張りますのでご指導よろしくお願いいたします。



りんどう

毎日々楽しく

支援係 坂口 麻由希



令和五年度四月より木曾寮に勤めさせていただいております坂口と申します。

若葉マークが取れずご迷惑をお掛けしてしまうこともあります。優しく声をかけて下さる利用者様や先輩支援員のアドバイスを受け学びの多い日々を過ごさせていただいています。今後一日でも早く皆さんのお役に立てるよう頑張りますのでよろしくお願い申し上げます。



しゃくぢ

令和五年度木曾広域連合 人事異動者紹介

木曾文化公園へ

黒田 将則 (生活相談係長)

環境センターへ

五月日 美帆 (支援係)

木曾寮在職中は木曾寮の主力となりご尽力いただきました。移動先でもご活躍されることをお祈りいたします。

生活相談係長兼調理係長

南山 奈々恵 (訪問介護係長)

令和六年一月より

訪問介護係

田村 くるみ (出向職員)

令和六年二月より

支援係

牛丸 和也 (出向職員)

新しい若い力で木曾寮を支えてくださいます。今後もよろしくお願いいたします。

猫と暮らした人生

匿名希望

私は三十年猫と一緒に暮らしてきました。とても長い時間一緒だったけれど、長いようで短い時間でした。とてもかわいい二匹の猫で、名前は「ちび」と「しろ」。私の後をついて来たり、エプロンのポケットに入るくらいの大きさでした。しろが後に来たのでちびはしろを自分の子のよう可愛がってくれていました。私が部落の集会に行く時もついて来て、終わるまで近くの藪の中で待っていたり、集会帰りの登り坂でしろは登れないと私を鳴いて呼んで、私

がしゃがむとしろは肩に飛び乗って連れて帰りました。いつもついて歩いて、歩けなくなると乗せてとせがんだから乗せてあげました。猫は私の首元を回し子供のようにおぶって家に連れて帰りました。町へ行く時も、「待っててよ」と話すときちんと留守番をしていてくれました。ネズミをとってきたことがあり、一度怒ったら、次の日の朝家の前に四匹ネズミを並べてあつてあれにはびっくりしました。ちびは一〇年以上生きていて逝ってしまいました。しろはその後ちびを探して歩いていて、自分を育ててくれたから探してい

たと思います。悲しくてしろと一緒に泣きました。しろは二年程探し歩いてその後逝ってしまいました。そのあとに雄猫を知り合いの人が連れてきてくれて「そら」と名付けました。ここにくるときに牛を飼っている人に引き取ってもらいました。住んでいた部落の人がみんな親切にしてくれて本当に幸せでした。いい人生でした。木曾寮に来る時もよく言わない人もいて不安の気持ちでいっぱいだったけど、職員の方たちが話しかけてくれて本当にいい人ばかりで安心して過ごせます。

木曾寮行事アルバム



避難訓練



ほうば巻き作り



誕生会



臨川寺清掃



辺見先生の運動教室

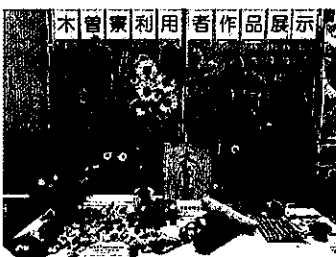


法話

高齢者作品展会長賞  
新家与子様・犬高曾子様



上松町総合文化展



外出行事バスハイキング



お花見ドライブ



森林浴ドライブ



自治会役員懇親会



新緑ドライブ

- ・ 上松町民生委員児童委員様
- ・ 人権擁護委員木曾支部様
- ・ 木曾仏教会様 (法話)
- ・ 上田明子様 (手芸クラブ)
- ・ 木曾町福島民生委員様
- ・ 田浅米穀店様
- ・ (株)しょうきち様
- ・ 上松町お針の会様
- ・ マツダはきもの店様
- ・ 上松町シニアクラブ様
- ・ 木曾町民生委員様
- ・ 上松町役場職員会様
- ・ (株)伊勢喜様
- ・ (有)環境サービス様
- ・ 木曾農業協同組合様

ボランティアの皆様  
令和五年三月、  
令和六年一月

編集後記

令和五年度はコロナ感染も第五類となり、全国的にも長いトンネルを抜け明るい生活を過ごせた一年となりました。木曾寮でも御面会、外出等少しずつではありますがありますが緩和でき、これもご家族の皆様のご協力をいただけたおかげと感謝しております。さて、令和六年度よ

- ・ 和木靖久様
- ・ 古瀬忠雄様
- ・ 尾崎文雄様
- ・ 古瀬隆男様
- ・ 下原敏幸様
- ・ 山本貞夫様
- ・ 太田富久美様
- ・ 傳村良子様
- ・ 斧洞美千代様

り新施設に新しい生活の拠点を移すこととなります。約六年間程の準備期間を経て新木曾寮が開設となります。この間、コロナ感染症の拡大、そして職員の人事異動が毎年行われ、多くの出会いや別れがありました。そのような中でも職員が一人丸となって進め、ようやく新しいスタートを切ることができま。今後とも職員一同で住み心地の良い木曾寮を目指してまいります。引き続き皆様の暖かいご支援をよろしくお願いいたします。

生活相談係長  
南山 奈々恵  
つづ